

六甲山の小河川を中心とした水辺環境

デジタル化・神戸の自然シリーズ
神戸の水辺環境

PDF



五助ダム

きれいな溪流と、それをせき止めてできた水たまりや湿地などに生き物が集まっています。

六甲山地からはたくさんの小河川が都市部へ向かって流れ出ていますが、その源流域の多くは国立公園内にあって、水も清浄です。また過去の水害の教訓からたくさんの砂防ダムが造られ、底にたまった土砂や水が、水たまりや湿地をつくりだしています。いずれも水は透き通るようにきれいです。

また六甲山は古くから開発がなされ、山上には、さまざまな施設とともに、池がつくられたり残されたりしています。そういったところには水生植物も茂り、特に寒冷地を好む水生生物が集まっています。



ハイキングコースに沿った溪流：溪流には水のきれいな流れ あじさい池：摩耶山頂の野外観察の池です。わき水を利用しを好む動物が集まっています。ただし、風化された花こう岩 てつくられています。冷たくきれいで、大型のヤンマがよくの河床は不安定で、意外とその密度は高くないようです。 卵を産んでいます。



自然にできた小さな池：六甲山地には、川の流れが地形によってせき止められて水がたまり、自然の池が形成されているところがあります。



ミヤマアカネ：裏六甲のふもと（加古川水系）に格別多いトンボでしたが、近年その姿は見られません。流れに住むアカス。

トンボで、現在は住吉川でときどき発見されています。



住吉川：市街地を流れる住吉川です。街並みにマッチしたエ
レガンスなながめです。両側に歩道があって、市民が水と親
しみやすくなっています。

新生田川：都心部を流れる河川は、治水のため、一直線で、
深く、コンクリートで固めて、水が一気に海に流れるように
設計しています。

神戸の水辺環境を見てみよう [トップへ](#)